スイス日本語福音キリスト教会

JEG ニュースレター155号

www.jegschweiz.com　　２０１６年 ３月２６日発行

小さな証

異国スイスに嫁ぎ、様々な壁にぶち当たり知った自分の無力さ。だから、、、。 P2

第33回集い受付終了

30の欧州日本語教会／集会から、これまで261名の参加申し込みがありました。 P3

新シリーズ

旧約聖書人物シリーズの最終回：ダニエルは、同時に新シリーズ”み国を待ち望む”の第一回となりました。 P3

韓国人からみた大震災

日本文学と日本人を深く愛するチョサオク先生が、韓国人としての立場から”東日本大震災”について卒直に語られました。 P4

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」　マタイ９：37-38

ちいさな証

顧みられた者として

フーサー香織
スイス日本語福音キリスト教会

”神様のために働くことは教師になってからもできるけど、でも、もっとダイレクトにその働きをすることはできないのか。教えることも大好きだけど、そうじゃなく、もっと神様のことをダイレクトに伝えたい。神様の愛を伝えたい。何故なら私はもう救われたから。神様の愛を知っているから。もっとこの喜びを多くの人に知ってもらいたいから。”

教師になることを志して入学した大学を卒業する際、私はこのような思いを日記に書き留め神様に祈りを捧げました。そして神様はこの祈りを心に留められ、いま私はシモンと共に宣教師として日本に渡ろうとしています。

宣教師となるビジョンを持ちながら、私は2014年に結婚のためスイスに渡ってきました。それは、海外旅行はしたことがあっても海外に住んだことのない私にとってある種の（怖いもの知らずの）冒険でした。初めてだらけのスイス生活。言葉や文化、人間関係。それらの「初めてづくし」をサポートしてくれる方一人ひとりと出会わせて下さった神様には、本当に感謝の言葉しかありません。

そしてスイスに来てから今まで、それらに対し全力でぶつかっていきました。ぶつかり続けて突破できた壁もあれば、打ちのめされる壁もありました。神様に導かれて与えられた道という確信があっても尚、時にその壁は想像を絶するダイナミックさで立ちはだかってきました。

そんな時、私は自分の不甲斐なさを否応なくひしひしと痛感させられました。「どうして私はこうなのだろう…」「どうして私はできないんだろう…」その度に私は自分の無力さを感じました。しかしそれと同時に「だから私には神様が必要なんだ」と、出来ない・弱い自分を受け止めて、へりくだった心で神様のもとに立ち返ることが出来ました。私のことを大きなその両手で受け入れてくださる神様の存在。この愛なる神様の存在なくして私は生きていかれません。

私がスイスで神様から示された、このどんな弱さがあっても認めて受け入れてくれる神様の存在を、日本に住む一人でも多くの人に伝えて彼らの心にも神様から来る平安が与えられるように働きたいと願っています。つぎはどんな冒険が始まるのか? 主に信頼し、夫婦ともども全力でぶつかっていきます！

●私たちのビジョン

日本に渡って私たちがまず行うことは、語学習得（シモン）と神学校での聖書の学び（香織）です。私たちは４月に日本に渡りますが、これらは８月に北海道に渡った時から始まります。（４月は休暇として香織の両親や友人との時間を過ごし、５月からOMFの働きをします。その時は実家近くの関東近郊で他の宣教師の方々の仕事をサポートしたいと思っています。６月の終わりから７月にかけてシンガポールで研修があり、その後北海道に渡り、正式に私たちの活動が始まります。）シモンは２年間語学学校で日本語を学びます。それと同時に、この２年間で日本を知ることも大切なことだと思います。また、私も約１年間北海道聖書学院にて聖書の学びをする予定です。宣教の地に赴くべく、御言葉と聖書の知識を心と頭に蓄えるいい時間になればと願っています。時には辛いこともあるかと思いますが有意義な時間となるようお祈りくだされば感謝です。

札幌での学びを終えた後、私たちはそこで具体的な活動内容を決める段階に至ります。私たちは神様に示された場所で、示された働きをしたいと願っています。現段階では具体的に「この働きをしたい！」という明確なものはまだありませんが、牧会活動やユースミニストリー、また海外からの帰国者ミニストリーなどに携われたら素敵だなぁと考えています。神様が私たちをどのように用いてくださるのか、期待しつつそのために出来ることから準備を始めていきたいです。

１、マイヤー牧師はイスラエル・ガリラヤ湖畔 Shavei Zionにおける修養会の講師として３月２日までご奉仕されました。そのため、２月２８日（日）の礼拝は、軍隊に勤務中のフーサー・シモン牧師（ヴァットヴィル・クリショーナ教会）に、”働き人として輝く”をテーマに、マタイの福音書５章13–16節からメッセージをしていただきました。通訳は香織夫人がされました。世の光として来られたイエスさまの光を反射して、私たちも遣わされた地において地の塩そして光として神と人とに仕えたいと願わされました。このメッセージはYoutubeにおいてもご覧いただけます。 Leuchtende Diener sein　働き人として輝く　Huser Simon - YouTube

２、2016年度は、次の兄姉が世話人会メンバーとして新役員会によって選任され、礼拝や伝道の企画他、神の体である教会運営ならびに礼拝準備に携わって下さることになりました。トムセン・ハンス兄（会長）、トムセン千香子姉（副会長／書記）、クスター節子姉、今村葉子姉、原しのぶ姉、ヘス明美姉、ヴァイランド千佳姉、フォンプランタ美和子姉、トムセン・チャーリー兄。２月14日には、役員世話人合同委員会が開かれ、役割の分担を決めたほか、世話人会議には全員参加の義務はなく、各代表者によって５人（最低）で行うことによってスリム化を図ることになりました。また、奉仕は教会員全員によって満遍なく行われるのが望ましく、情報やお知らせが会員に行きわたるようにグループメールが試験的に創設されました。

３、1年間、ウスター在住の祖父母のもとから小学校とスイスJEGに通っていたローゼンクランツ安奈ちゃんが、1年の留学期間を終え、迎えにこられた御両親と九州に帰ることになりました。この1年、すっかりスイスJEGに溶け込み、CSの人気者にもなっていた安奈ちゃんに別れを告げ、寂しくなりました。写真は、お礼を伝えるローゼンクランツ・クリスチャン、直美宣教師です。両宣教師は開拓伝道後、建て上げた宮崎市の教会を日本人牧師に託し、福岡市で春から新たに開拓伝道に携わることになります。

３月１３日の愛餐会で、４月７日、日本に発たれるフーサーシモン・香織宣教師ご夫妻へのささやかな送別会を持ちました。

４、３月１３日（日）　マイヤー牧師の”旧約聖書人物シリーズ”の最終回は、ダニエル　（紀元前606年、バビロンに連行）に焦点を充てたメッセージでした。メシアの到来を預言したダニエルは、同時に、夏のキリスト者の集いのテーマにむけて、スイスJEGの信徒が整えられることを目的とした”み国を待ち望む”シリーズの初回ともなりました。

　ダニエルは、ネブカデネザルの見た夢を解き明かすことでバビロンからペルシア、そしてギリシャからローマへと壮大な歴史の流れと、そして、終わりの時代にメシアの再臨を預言しましたが、み言葉と祈りを中心としたダニエルの信仰に私たちは現代の生活への適応を学びました。

　このメッセージ（日独語）はスイス日本語キリスト教会の礼拝メッセージサイト　http://www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/で、説教に使われたパワーポイントの資料を手元にしながら録画をご覧いただけます。

５、7月27日から31日まで南ドイツ・シュヴァルツヴァルドで開催される第33回”ヨーロッパ・キリスト者の集い”の申し込み書の受付が３月20日に終了いたしました。ヨーロッパ各地の30の日本語教会／集会から、現在261名の参加申し込みがあります。スイスJEGからは59名（日本ほか、スイスJEG外からの15名の参加を含む）が参加します。キリスト者の集いオフィシャルHPに、第33回の集いに関する、英語版を含む全ての最新情報が開示される特別サイトが設けられていますので、ご利用ください。http://www.europetsudoi.net/第33回キリスト者の集いの特設サイト/

６、マイヤー牧師は、スイスJEGの牧会の働きに加え、Netzwerk: Evangelium für Japaner（日本語福音ネットワーク）の働きとして南ドイツに点在する５つの家庭集会／聖書を学ぶ会を巡回ケアーされています。この働きにスイスJEGも積極的に関わり、祈りと献金で支援していくことが今年の総会で決議されました。また、従来通り、２ヶ月に1回、スイスJEGに属する家庭集会を廻られています。３月21日は、９時半からのチューリッヒ家庭集会のあと、５時半のサンクトガーレン家庭集会に出られ、イエス様の十字架の上での７つの”ことば”から２つを学び、最後のみことば”完了した”の持つ深い意味を学びました。

７、オーニンガー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”、ローゼンクランツNLが届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

韓国人から見た東日本大震災

曺紗玉（ソウル在住）
チョサオク

私は、1989年日本に留学しました。目的は芥川龍之介の研究でした。キリスト教に関心を持って聖書を読み、特にイエス・キリストを愛していた芥川に興味を感じたのです。孤独な留学生でしたが、帝国主義、植民地主義を批判し、確たる歴史認識を持っていた芥川の文章に慰められました。そして、芥川龍之介という、日本人作家が好きになりました。

今から5年前の2011年3月11日、日本の三陸沖を震源地としたマグニチュード9．0という東日本大震災が起こりました。この大地震は、日本人のこれまでの価値観に大きな変化をもたらしました。幸せとは何かという質問に、<家族>と答えた人が圧倒的に多かったようです。<絆>という言葉も話題になりました。３・11の震災は、日本だけに終わらず、世界に及ぼした影響も大きかったようです。過去の世界各国の災害の時、救助チームを派遣し、物質的な面でも寄与してきた日本に、地球村と感じさせる激励や温情が届きました。また、日本人の困難な中での秩序意識は、世界の人々に大きな感銘を与えることとなりました。

津波に流された気仙沼第一聖書バプテスト教会

その中でも一番注目を浴びたのは、教会の活動です。現地の教会は、教会が津波に流されているにもかかわらず伝道をしつづけ、みんなの協力と祈りで新しい教会を新築することができました。また、クリスチャンは、ボランティアとして東北地方に入り、いまだに奉仕と伝道活動をしています。彼らの奉仕に感動して、クリスチャンになった人も多いそうです。また、外国人のクリスチャンの奉仕も続きました。コンサートを通して震災地の方々に勇気を与え、たゆまないイエス・キリストの愛を伝えている人もいます。苦難の中で主にあって私たちは一つであることを人々は実感したのです。

2011年の２月から１年間、わたしは京都の同志社大学にサバチカル・イヤーで滞在、研究を続けていました。震災の年でした。そして一年間、日本人と苦しみを分かち合い、キリストの平和を伝えるチャンスが与えられました。このことを主に感謝しております。他方、韓国の教会では、日本、そして日本人のために、心を一つにして、一生懸命、祈りました。震災をきっかけに、日本伝道を希望し、宣教師になった人もいます。ソウルには、日本語礼拝教会は22ぐらいありますが、3月11日を覚え、毎年集まって集会を持ち、共に祈っております。言葉で説明もできない、辛い震災の経験ですが、震災地の方々、全部の日本人に、真の平和はイエス・キリストから来ることを伝える使命が、今、私たちに与えられていることを覚えなければならないと思います

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。　ローマ12:15

わたしの研究テーマは芥川龍之介です。そこで以下、わたしたちはこの震災を機に、いかに生きるべきかを芥川を例に考えたいと思います。

さて、今から93年前の1923年9月1日、関東大震災が発生しました。マグニチュード7.9～8.3との強震であり、死者、行方不明者105385人に至りました。当時の日本は、国家至上主義の帝国主義時代でした。当日の夜から警察官たちは、朝鮮人が放火や殺人をしたという、うわさを拡散させ、二日目からは軍人もこうした流言蜚語を流し、戒厳令が下され、朝鮮人逮捕を命じました。関東地方に組織された自警団数は3689に至り、殺害された朝鮮人は6661名に及んでいます。第２次世界大戦後、ようやくこの事実が一般に知らされ、各地に朝鮮人犠牲者の追悼の碑も建てられるようになりました。2010年9月24日には、関東各地での朝鮮人虐殺事件の調査と犠牲者の追悼をしてきた人たちにより、「関東大震災朝鮮人虐殺の責任を問う集まり」が結成されました。

ところで、芥川龍之介は、大地震の記録を10編ぐらい残しています。その中で、「侏儒の言葉」（1927年）の「或自警団員の言葉」の章では、「鳥は現在にのみ生きるものである。しかし我我人間は過去や未来にも生きなければならぬ。と云ふ意味は悔恨や憂鬱の苦痛をもなめなければならぬ。殊に今度の大地震はどのくらい我我の未来の上へ寂しい暗黒を投げかけたであらう」と述べ、続いて以下のように述べています。

我我は互いに憐まなければならぬ。いわんや殺戮を喜ぶなどは、—尤も相手を絞め殺すことは議論に勝つよりも手軽である。

関東大震災の記録や感想を書いた芥川龍之介が、一方でものした小説に「金将軍」という朝鮮を舞台とした小説が挙げられます。これは1924年2月１日発行の雑誌『新小説』に発表されたものです。私は、これまで「金将軍」を、1921年に大阪毎日新聞社の特派員として中国各地を訪ね、高まった歴史認識が生んだ小説として読んできました。その考えには変わりはありません。しかし、関東大震災を経験して書いた芥川の記録や感想を読んでいるうちに、彼の意図がより理解出来るようになったのです。

「金将軍」で芥川は、加藤清正と小西行長とが「八兆八億」の兵士と共に朝鮮八道へ襲来した時のことについてふれています。彼は「家を焼かれた八道の民は親は子を失ひ、夫は妻を奪われ、右往左往に逃げ惑つた。」と書きます。さらに「もしこのまま手をつかねて倭軍の蹂躙に任せてゐたとすれば、美しい八道の山川も見る見る一望の焼野ケ原と変化する外はなかつたであらう。」と言い、侵略戦争の横暴と残虐さを暴露しているのです。これは日本帝国主義への批判と繋がるでしょう。それは、関東大震災時、戒厳令という非常事態の下で、軍隊、警察、民間人で造られた自警団が一つになり、多くの朝鮮人を殺し、「殺戮を喜ぶ」状態になったことと変わりのない様子です。

次に「桃太郎」は、1924年７月１日「サンデー毎日」に発表された小説です。これも関東大震災を経験した芥川の悔恨の念から生まれた作品であると見ることもできます。これも中国視察や関東大震災を体験した芥川の新たな視座が生んだ作品と言えそうです。

この小説での鬼が島は「美しい楽土」で、鬼たちは「平和を愛してゐた」のです。桃太郎は、こういう罪のない鬼に建国以来の恐ろしさを与えます。一緒に行った飢えた動物、犬・猿・雉は、鬼の若者を噛み殺し、鬼の子供を突き殺し、鬼の娘を絞め殺す前に、「必ず凌辱を恣に」したとあります。その後鬼が島の鬼たちが海を渡ってきては桃太郎の寝首をかこうとします。人違いで猿が殺されたりする不幸に、桃太郎は嘆息をもらします。

芥川の「桃太郎」という小説は、おとぎ話の桃太郎の話に比べると、かなり変わったストーリーになっています。けれども、ここで言えることは、芥川は日本人によく知られた昔話「桃太郎」を用いて、新たな物語を紡いでいるのです。これは中国視察旅行以後育った芥川の侵略への批判意識が、最大限に発揮された小説と言うことが出来そうです。芥川は震災後、このような批判精神に満ちた小説を書きました。また、現実をしっかり見つめた震災に関するエッセイを遺してくれました。一韓国人としてのわたしは、こうした芥川の営為に驚きの眼を見張ります。芥川のように震災を機に新しく生まれ変わったかのような仕事をした人（作家）がいたのです。

なお、３・11を経て5年の日本では、いま、多くの震災記録、アーカイブの保存に力を入れています。震災地ばかりでなく、国を挙げての記録の集積には、同じ東アジアにある韓国も学ばなければならないことが多くあります。それは人類の<後世へのよき遺産>となるからです。

曺紗玉(チョサオク)
仁川大学日語日文科教授
日本宣教教会（メソジスト教団）主任牧師
文学博士、神学博士

気仙沼第一聖書バプテスト教会　嶺岸 浩牧師
を招聘しての、311 KIZUNA 集会

Danke schön！ スイスJEGと私たち

フーサー・シモン
香織

―スイスで堂々と日本語で祈れる場所―　スイスの田舎に住む私にとって「堂々と」日本語でコミュニケーション出来、日本語でメッセージも聴けるJEGは何とも形容しがたい「心落ち着く場」となりました。シモンも１度礼拝メッセージをさせていただき、神様や皆さんと有意義な時を過ごさせていただくなど、夫婦共々毎回JEGを楽しみにしていました。そして何より教会の雰囲気がいいこと。今までと同じように礼拝に参加できなくなることを考えると、今も悲しくてしょうがなくなってきます。

しかし、聖書には「私たちの国籍は天にある」と書かれています。遠く離れていても同じ空の下で、主を見上げているならまたいつか会える。スイスにいたって日本にいたって、スイス人でも日本人でも、主を見上げているなら私たちは一つ。希望はいつも天にある。私たちクリスチャンはその神様から来る希望をいつでももつことが出来ることに感謝です。…でもやっぱり忘れられてしまったらとても悲しいので、是非祈りに覚えてあげてくださいね。そうしたらとても喜びます(笑)。というより、もうすでにいつも私たちのことに心を留め、祈り、励ましてくださってありがとうございます。また２月の礼拝時には私たちの働きのために献金をしてくださり心から感謝します。嬉しいサプライズの時でした。そうしてJEGに集う一人ひとりに支えられて私たちが主のために仕えられること、日本宣教のために皆の想いが一つだということをしっかり心に刻んで働いていきたいです。私たちもJEGのため、JEGに集う皆さんのためにお祈りしています。これからもお互い近況を報告したり連絡を取ったりして祈り合いましょうね。私たちをJEGと出会わせてくださった神様に感謝します。JEGの上に神様からの豊かな祝福がありますように！

日出ずる国へ　ビデオクリップ54秒
https://www.youtube.com/watch?v=r4iC2on35kg